

アカイカ漁に期待を寄せて

石川県・小木港から北太平洋に向けてイカ釣り漁船が出港

晴天に恵まれた 5 月 10 日、石川県漁業協同組合小木支所所属の中型イカ釣り漁船が、家族や知人、漁業実習生の仲間の見送りを受け、北太平洋東沖のアカイカ（ムラサキイカ）漁に向け、小木港（石川県鳳珠郡能登町）から出港した。

近年まで盛んだった日本海のスルメイカ漁は、海水温の上昇や海況変化の影響で不漁が続く、事業の継続が難しく廃業する会社も続出した。

アカイカの漁場は、日本近海と違い、漁場までも 10 日ほどかかるが、日本海のスルメイカ漁に比べて漁獲量が安定していることから、日本海で操業していた漁船も活路を見いだすべく、アカイカ漁へ切り替えて、北太平洋の漁場へ向かう。

ただし、不透明な中東情勢と燃料油価格の高騰が不安材料に拍車をかける状況となっている現在、今後の水揚げに不安を残すことも懸念されている。

小木港からは、第二十三輪島丸と第二十八宝来丸、第八十六永宝丸、第三十一永宝丸、第八十八興洋丸、第五十八金剛丸の 7 隻が出港した。各船の漁労長は、水揚げも重要だが乗組員の健康と安全が第一であり、事故の無いように頑張りたいと抱負を語った。見送りの人たちは安全航海と大漁満足を祈って見送った。

「海員だより」